

釧路八重 (釧路市)



柳町公園で咲き始めた釧路八重の花

桜前線の最終到着地を艶やかに彩る八重の桜

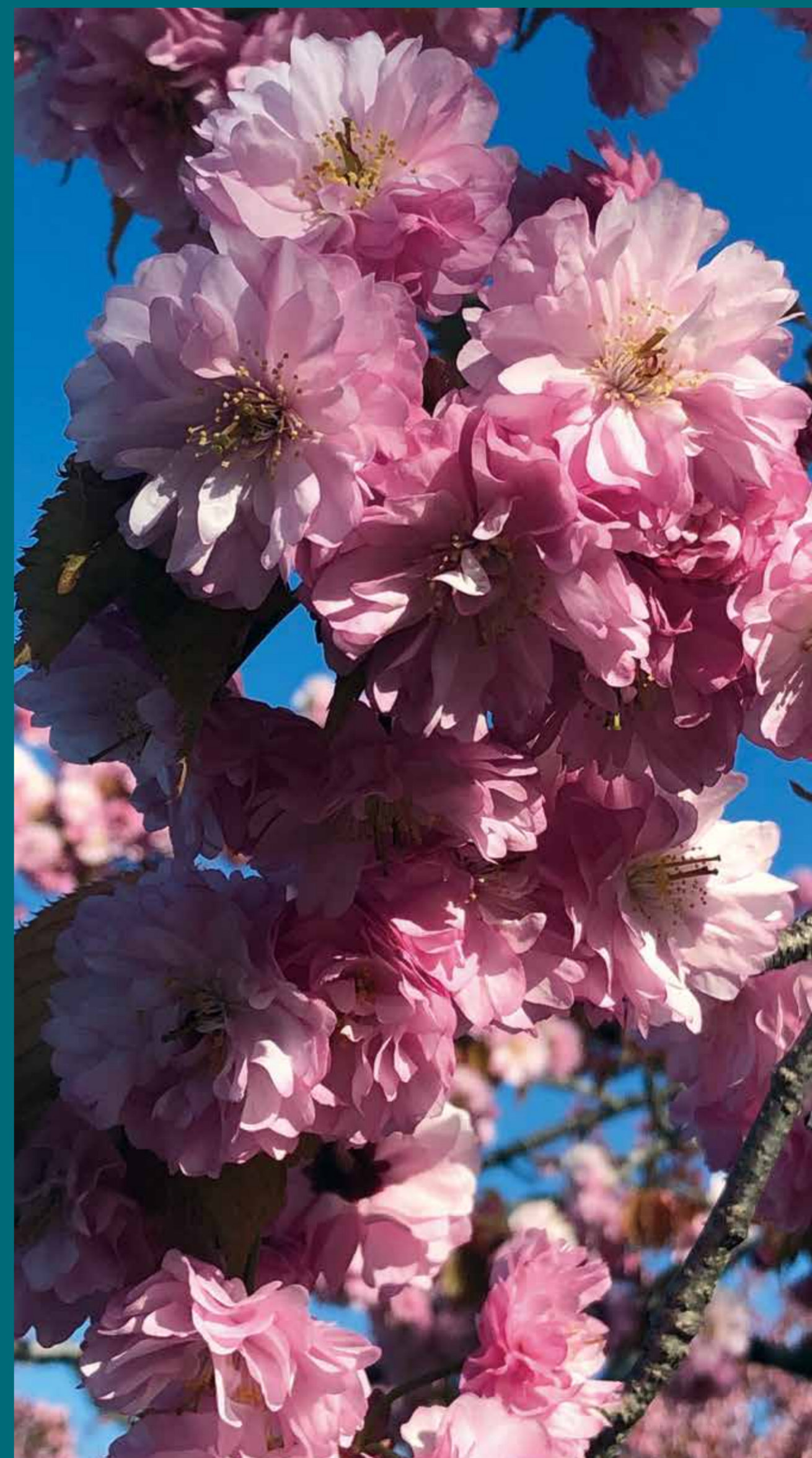
釧路は冬の寒さが厳しく、春の到来も遅いため、桜前線の到達が毎年のように一番遅くなる地域である。生育できる樹種もほとんど自生種で、花見の桜もエゾヤマザクラに限られていた。

戦前から釧路で造園業を営んでいた稲澤六郎氏は、エゾヤマザクラのあとに咲く八重の桜ができないものかと、色の濃い桜を見つけてはタネを取って播いていたところ、1967年に咲いた株の中から、濃いピンクで八重咲の株が見つかった。接ぎ木による増殖も苦労を重ねた末に成功させ、ようやく普及に目途が立って間もなく六郎氏は亡くなられたが、娘さんがその遺志を継いで増殖普及に努め、市内各所で艶やかな花を楽しむことができるようになった。

エゾヤマザクラ唯一の八重咲品種の育成や、接ぎ木増殖法を確立するなど技術的価値が極めて高く、原木の保全や苗木の増殖に市民が立ち上がるなど、地域全体でこの木を支えていることも高く評価される。

概要

名称	釧路八重
所在地	釧路市内各所、道東地域など (原木は鶴居村)
種別等	造園材料 (樹木)
作者	稲澤六郎氏 (1906 ~ 1983)
作出年	1967年 (昭和42年) 初開花
登録年	1981年 (昭和56年) 農林水産省品種登録第145号



花色が濃く、花弁も30～50枚もある釧路八重